

農地法第3条の規定による許可申請書

平成 年 月 日

屋久島町農業委員長 鎌田 秀久 殿

申請者の氏名（邦人にあつてはその代表者の氏名）自署する場合においては、押印を省略することができます。

署名又は記入押印
します。

署名又は記入押印
します。

<譲渡人>

<譲受人>

住所 屋久島町尾之間〇〇〇番地〇〇

住所 屋久島町麦生〇〇〇番地〇〇

氏名 農地 譲 印

氏名 田畑 耕作 印

☎ ()

☎ ()

該当する内容に
○を付します。

所有権

賃借権

使用貸借による権利

その他使用収益権 ()

該当する内容に
○を付します。

設定(期間 年間)

移転

下記農地(採草放牧地)について

を

したいので、農地法第3条第1項に規定する許可を申請します。(該当する内容に○を付してください。)

記

1 申請者の氏名等

申請者	氏 名	年 齢	職 業	住 所
譲渡人	農地 譲	85	無職	屋久島町尾之間〇〇〇番地〇〇
譲受人	田畑 耕作	40	農業	屋久島町麦生〇〇〇番地〇〇

2 許可を受けようとする土地の所在等 (土地の登記事項証明書を添付してください。)

所在・地番			地 目		面積(m ²)	対価、賃料等 の額(円) (10a当たりの額)	所有者の氏名又は 名称 (現所有者が登 記簿と異なる場合)	所有権以外の使用収益権が設 定されている場合	
大字	小字	地番	登記簿	現況				権利の種類、 内容	権利者の氏名 又は名称
麦生	田小原	〇〇番	畑	畑	2,000	800,000 (400,000)			
許可を受けようとする土地の字・小字・地番・登記簿上の地目・現況 面積以下、必須事項を記入します。									

権利を設定又は移転しようとする時期、土地の引渡しを受けようとする時期、契約期間等を記載します。

3 権利を設定し、又は移転しようとする契約の内容

売買 ①設定時期 平成〇年〇月〇日 ②土地の引渡しを受ける時期 平成〇年〇月〇日

(記載要領)

- 1 申請者の氏名（法人にあつてはその代表者の氏名）を自署する場合には、押印を省略することができます。
- 2 法人である場合は、住所は主たる事務所の所在地を、氏名は法人の名称及び代表者の氏名をそれぞれ記載し、定款又は寄付行為の写しを添付（独立行政法人及び地方公共団体を除く。）してください。
- 3 競売、民事調停等による単独行為での権利の設定又は移転である場合は、当該競売、民事調停等を証する書面を添付してください。
- 4 記の3は、権利を設定又は移転しようとする時期、土地の引渡しを受けようとする時期、契約期間等を記載してください。また、水田裏作の目的に供するための権利を設定しようとする場合は、水田裏作として耕作する期間の始期及び終期並びに当該水田の表作及び裏作の作付に係る事業の概要を併せて記載してください。

農地法第3条の規定による許可申請書（別添）

I 一般申請記載事項

<農地法第3条第2項第1号関係>

1-1 権利を取得しようとする者又はその世帯員等が所有権等を有する農地及び採草放牧地の利用の状況

		農地面積 (㎡)			採草放牧地面積 (㎡)			
		田	畑	樹園地				
所有地	自作地	6,000	500	500	5,000			
	貸付地	なし						
		所在・地番			地目		面積 (㎡)	状況・理由
		字	小字	地番	登記簿	現況		
	非耕作地	なし						

		農地面積 (㎡)			採草放牧地面積 (㎡)			
		田	畑	樹園地				
所有地以外の土地	借入地	なし						
	貸付地	なし						
		所在・地番			地目		面積 (㎡)	状況・理由
		字	小字	地番	登記簿	現況		
	非耕作地	なし						

(記載要領)

- 「自作地」、「貸付地」及び「借入地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されているものの面積を記載してください。
なお、「所有地以外の土地」欄の「貸付地」は、農地法第3条第2項第6号の括弧書きに該当する土地です。
- 「非耕作地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されていないものについて、筆ごとに面積等を記載するとともに、その状況・理由として、「～であることから条件不利地である」、「賃借人〇〇が〇年間耕作を放棄している」、「～のため〇年間休耕中である」等耕作又は養畜の事業に供することができない旨を詳細に記載してください。

1-2 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の機械の所有の状況、農作業に従事する者の数等の状況

(1) 作付(予定)作物、作物別の作付面積

作付(予定)作物	田	畑			樹園地		採草放牧地
	水稻	じゃがいも	やまいも		ぼんかん	たんかん	
権利取得後の面積(m ²)	500m ²	2,000m ²	500m ²		1,000m ²	4,000m ²	

(2) 大農機具又は家畜

数量	種類	耕運機	刈払い機	動噴	運搬機	
	確保しているもの	所有	1台	1台	1台	
導入予定のもの	所有					
	リース				1台	
	[資金繰りについて]					

(記載要領)

- 「大農機具」とは、トラクター、耕うん機、自走式の田植機、コンバイン等です。「家畜」とは、牛、豚、鶏等です。
- 導入予定のものについては、自己資金、金融機関からの借入れ(融資を受けられることが確実なものに限る。)等資金繰りについても記載してください。

(3) 農作業に従事する者

- ① 権利を取得しようとする者が個人である場合には、その者の農作業経験等の状況
 農作業暦 20 年、農業技術修学暦 年、その他 ()

② 世帯員等その他 常時雇用している 労働力(人)	現在: 2 (農作業経験の状況: 15年~20年の農作業従事)
	増員予定: (農作業経験の状況:)
③ 臨時雇用労働力 (年間延人数)	現在: (農作業経験の状況:)
	増員予定: (農作業経験の状況:)

- ④ ①~③の者の住所地、拠点となる場所等から権利を設定又は移転しようとする土地までの平均距離又は時間

(8,000 m) (車で 10分)

世帯員がその取得後において行う耕作に必要な農作業に常時従事すること

<農地法第3条第2項第4号関係> (権利を取得しようとする者が個人である場合のみ記載してください。)

4 権利を取得しようとする者又はその世帯員等のその行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業への従事状況

(「世帯員等」とは、住居及び生計を一にする親族並びに当該親族の行う耕作又は養畜の事業に従事するその他の2親等内の親族をいいます。)

(1) その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業へ常時従事している者の氏名・年齢・職業・取得権利者との関係

	氏名 (経験年数)	年齢	職業	権利者との関係
①	田畑 耕作 (20)	40	農業	本人
②	田畑 作子 (10)	35	農業	妻
③				
④				

作物名を記載し、該当する期間(実績又は見込み)を矢印で示します。

(2) その者の農作業への従事期間(該当する期間(実績又は見込み)を「←→」で示してください。)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業の期間	水稻				←→								
	じゃがいも	←→									←→		
	やまいも	←→				←→							
	果樹	←→											←→
その者が農作業に常時従事する期間	①	←→											←→
	②												
	③												
	④												

(「農作業に常時従事する期間」とは、その期間、必要な農作業(耕作、養畜、刈取り等)にいつでも従事できる状態にあることをいいます。)

下限面積30a以上

上記4-(1)の方の該当する期間(実績又は見込み)を矢印で示します。

<農地法第3条第2項第5号関係>

5-1 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における経営面積の状況(一般)

(1) 権利取得後において耕作の事業に供する農地の面積の合計

(権利を有する農地の面積+権利を取得しようとする農地の面積) = 8,000 (㎡)

(2) 権利取得後において耕作又は養畜の事業に供する採草放牧地の面積の合計

(権利を有する採草放牧地の面積+権利を取得しようとする採草放牧地の面積) = (㎡)

5-2 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における経営面積の状況（特例）

以下のいずれかに該当する場合は、5-1 を記載することに代えて該当するものに印を付してください。

- 権利の取得後における耕作の事業は、草花等の栽培でその経営が集約的に行われるものである。
- 権利を取得しようとする者が、農業委員会のあっせんに基づく農地又は採草放牧地の交換によりその権利を取得しようとするものであり、かつ、その交換の相手方の耕作の事業に供すべき農地の面積の合計又は耕作若しくは養畜の事業に供すべき採草放牧地の面積の合計が、その交換による権利の移転の結果所要の面積を下ることとならない。
(「所要の面積」とは、北海道で2ha、都府県で50aです。ただし、農業委員会が別に定めた面積がある場合は当該面積です。)
- 本件権利の設定又は移転は、その位置、面積、形状等からみてこれに隣接する農地又は採草放牧地と一体として利用しなければ利用することが困難と認められる農地又は採草放牧地につき、当該隣接する農地又は採草放牧地を現に耕作又は養畜の事業に供している者が権利を取得するものである。

農地を借りている人が更に貸す場合

<農地法第3条第2項第6号関係>

6 農地又は採草放牧地につき所有権以外の権原に基づいて耕作又は養畜の事業を行う者（賃借人等）が、その土地を貸し付け、又は質入れしようとする場合には、以下のうち該当するものに印を付してください。

- 賃借人等又はその世帯員等の死亡等によりその土地について耕作、採草又は家畜の放牧をすることができないため一時貸し付けようとする場合である。
- 賃借人等がその土地をその世帯員等に貸し付けようとする場合である。
- 農地保有合理化法人又は農地利用集積円滑化団体がその土地を農地売買等事業の実施により貸し付けようとする場合である。
- その土地を水田裏作（田において稲を通常栽培する期間以外の期間稲以外の作物を栽培すること。）の目的に供するため貸し付けようとする場合である。
(表作の作付内容＝ 、裏作の作付内容＝)
- 農業生産法人の常時従事者たる構成員がその土地をその法人に貸し付けようとする場合である。

<農地法第3条第2項第7号関係>

7 周辺地域との関係

権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における耕作又は養畜の事業が、権利を設定し、又は移転しようとする農地又は採草放牧地の周辺の農地又は採草放牧地の農業上の利用に及ぼすことが見込まれる影響を以下に記載してください。

(例えば、集落営農や経営体への集積等の取組への支障、農薬の使用法の違いによる耕作又は養畜の事業への支障等について記載してください。)

支障等は、特にないと思います。

II 使用貸借又は賃貸借に限る申請での追加記載事項

権利を取得しようとする者が、農業生産法人以外の法人である場合、又は、その者又はその世帯員等が農作業に常時従事しない場合には、Iの記載事項に加え、以下も記載してください。

(留意事項)

農地法第3条第3項第1号に規定する条件その他適正な利用を確保するための条件が記載されている契約書の写しを添付してください。また、当該契約書には、「賃貸借契約が終了したときは、乙は、その終了の日から〇〇日以内に、甲に対して目的物を原状に復して返還する。乙が原状に復することができないときは、乙は甲に対し、甲が原状に復するために要する費用及び甲に与えた損失に相当する金額を支払う。」、「甲の責めに帰さない事由により賃貸借契約を終了させることとなった場合には、乙は、甲に対し賃借料の〇年分に相当する金額を違約金として支払う。」等を明記することが適当です。

<農地法第3条第3項第2号関係>

8 地域との役割分担の状況

地域の農業における他の農業者との役割分担について、具体的にどのような場面でどのような役割分担を担う計画であるかを以下に記載してください。

(例えば、農業の維持発展に関する話し合い活動への参加、農道、水路、ため池等の共同利用施設の取決めの遵守、獣害被害対策への協力等について記載してください。)

集落等の共同作業等全面的に協力いたします。

営農計画書

譲受人 住所 屋久島町尾之間 157 番地
(借人) 氏名 岩川 太郎 ㊦

1 構成員（同一世帯員）数 3 人
うち、必要な農作業に常時従事する者 2 人

自分の経営農地と面積
が合うこと

2 経営面積
田 _____ m²、畑 3,500 m²、採草放牧地 _____ m²、合計 3,500 m²
うち、借入地
田 _____ m²、畑 _____ m²、採草放牧地 _____ m²、合計 _____ m²

3 営農計画の概要

(1) 現在の経営状況及び年間販売高等

ポンカン 1,000 m³ 1.5 t , 45 万円

タンカン 2,000 m³ 3 t , 90 万円

野菜 500 m³ (自家消費)

(2) 申請地を取得した後の具体的な営農計画及び年間販売計画等

たんかんを植栽 40 本 30 万円

4 農業以外の事業を行なっている場合は、その概要

〇〇会社勤務

5 取得しようとする農地に必要とする所用労働力及び重要な作業方法

(1) 播種及び植付の方法

手作業により植え付け

(2) 水利見廻り等一般管理の方法

スプリンクラーの水利用・一般管理は手作業

(3) 施肥、除草等の方法

手作業及び草刈機

(4) 病虫害発生等に係る薬剤散布の方法

動噴による防除 (スプリンクラーによる防除)

(5) 収穫の方法

手作業による

6 他の農地における作業と競合の有無及びその対策

特になし

7 取得する農地の附近に現に耕作する農地があれば、その農地の表示

〇〇字△△123 番地 畑 1000 m²